

高品質良食味で栽培性に優れる早生の水稲新品種「なついろ」

利用対象：土地利用型農家、普及指導員

本県は「コシヒカリ」の作付け比率が水稲作付面積の約 8 割を占め、夏季の高温等の影響により過去 10 年（平成 20～29 年産）の水稲うるち玄米の 1 等米比率は平均で 44.5%と、全国（同 79.5%）と比較して低い水準となっています。そこで、高品質かつ良食味で栽培性に優れる水稲品種を育成し、県産米の品質向上に取り組みます。

表 「なついろ」の生育・収量・品質調査結果（農業研究所内、平成 28 年～令和元年）

品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄 米重 (kg/a)	比較 対比 (%)	千粒 重 (g)	玄米 外観 品質 (1-9)	倒伏 程度 (0-5)	食味 官能 評価 (-3+3)
なついろ	7.13	8.12	81	20.5	450	60.4	107	22.9	4.3	0.1	0.09
コシヒカリ	7.16	8.18	91	19.3	479	56.7	100	21.3	6.3	3.6	0.00

注) 播種期は 4 月 2 日、移植期は 4 月 25 日。玄米外観品質は「上上」(1)～「下下」(9)の 9 段階、倒伏程度は「無」(0)～「甚」(5)の 6 段階で評価。食味官能評価はコシヒカリを基準とした相対評価で「不良」(-3)～「並」(0)～「良」(+3)の 7 段階で評価。

品種特性（コシヒカリとの比較）

- ・ 出穂期は 3 日程度早く、成熟期は 6 日程度早い。
- ・ 稈長は 10cm 程度短く、耐倒伏性に優れ、いもち病抵抗性（葉いもち抵抗性）が非常に強いことから、栽培性に優れる。
- ・ 穂数はやや少ないが、玄米千粒重が 1.6g 程度大きく、収量は同程度である。
- ・ 夏季の高温下で登熟しても玄米外観品質が良好である。
- ・ 「コシヒカリ」と同程度の良食味を有する。



図 1 いもち病検定試験



図 2 玄米の外観品質

（利用上の留意点）

- ・ 耐倒伏性に優れ、高度ないもち病抵抗性を有することから、多肥栽培により多収が見込める。
- ・ 保有しているいもち病抵抗性は葉いもちに対する圃場抵抗性で、病気にかかることを完全に防ぐことはできないが、様々な系統のいもち病菌に対して被害を軽減するタイプの抵抗性である。
- ・ 「コシヒカリ」と比較すると、登熟期間中に葉色が濃く推移し、収穫適期においても穂軸に青みが残りがすいため、収穫適期（籾水分 26～28%、出穂期後 30 日前後）に留意する。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課	松本憲悟	電話	0598-42-6359
	中央農業改良普及センター	磯山繁幸	電話	0598-42-6323
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm			